

はじめに

綴喜古墳群は現在の京田辺市から八幡市にかけて広がる古墳時代前期後半（4世紀後半ごろ）を中心に築造された古墳群です。綴喜古墳群は約30基から構成されますが、そのうち4つの古墳（京田辺市域：天理山古墳群・大住車塚古墳・飯岡車塚古墳、八幡市域：八幡西車塚古墳）が令和4年11月に国指定史跡に指定されました。そのうち天理山古墳群は酬恩庵一休寺の裏山に所在し、3基の古墳から構成される古墳群です。今回は3号墳の規模や構造等の確認を行うため発掘調査を実施しました。

調査成果

・後円部西側（第1調査区）

後円部下段斜面と、それに伴う基底石・葺石を検出しました。検出した下段斜面の長さは約0.7mです。基底石は長辺約30cmの石材を横向きに配置しています。基底石の外側で樹立した状態の埴輪を1本検出しました。埴輪の直径は約37cmと大きく、3段目まで残っていました。埴輪の周りには、埴輪よりもわずかに大きい据え付け穴が見つかりました。この埴輪の周辺からは朝顔形埴輪の破片がまとまって出土したため、朝顔形埴輪である可能性があります。

・前方部東側（第2調査区）

前方部斜面および平坦面を検出しました。中段斜面は長さ約1.1m、下段斜面は長さ約1.7m、中段平坦面は長さ約2m、下段平坦面は約1mを測ります。葺石は中段斜面でのみ残っていました。他の部分では流出してなくなっていました。上段斜面から墳裾までが良好な状態で見つかったことで、前方部が三段築成であったことが判明しました。

・後円部南側（第3調査区）

後円部斜面および平坦面を検出しました。上段斜面の検出長は約6mと長く、中段斜面の4倍以上の長さであることが分かりました。中段の平坦面では埴輪が樹立した状態で見つかりました。埴輪の直径は約37cmとこれまでに見つかっているものとほぼ同じです。樹立した状態で見つかったのは1本のみですが、樹立している埴輪から西側に約1.4～1.8mの間隔で埴輪を埋めていた痕跡が残っていました。そのため本来は墳丘には多くの埴輪が並べられていたと考えられます。

調査のまとめ

天理山3号墳は全長82mを測り、前方部・後円部とも三段で築成されていることがわかりました。葺石・埴輪は流出しているものも多くありますが、本来は古墳全体に存在していたと考えられます。古墳の時期は出土した埴輪から古墳時代前期末頃（西暦400年頃）と考えられます。

最後になりましたが、今回の発掘調査にご参加いただいた皆様、地元の皆様、ご指導・ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

天理山3号墳の発掘調査－第3次調査－

編集・発行 京田辺市市民部文化・スポーツ振興課

〒610-0393 京都府京田辺市田辺80

TEL 0774-64-1300 FAX 0774-64-1305

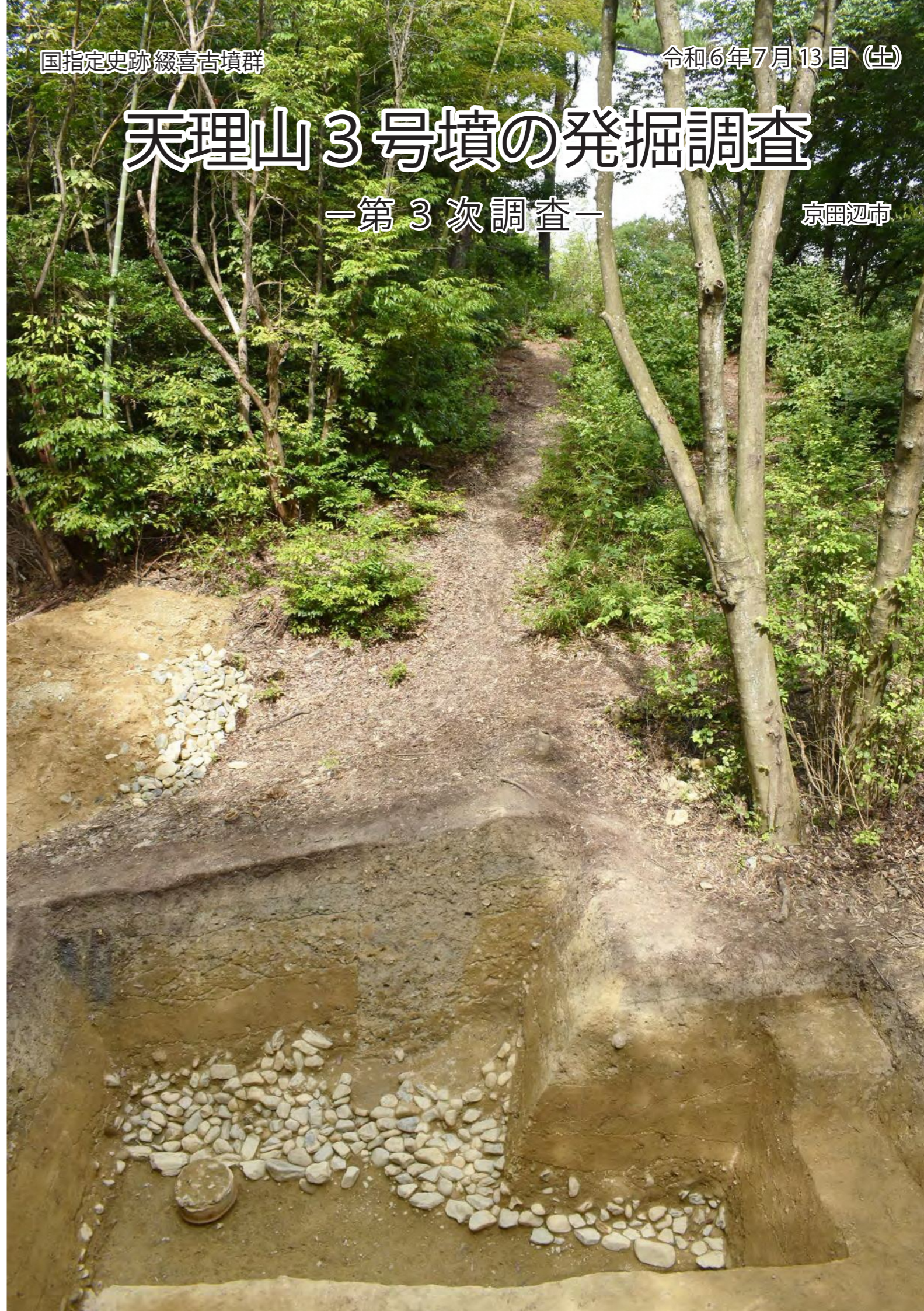
国指定史跡 綴喜古墳群

令和6年7月13日（土）

天理山3号墳の発掘調査

－第3次調査－

京田辺市



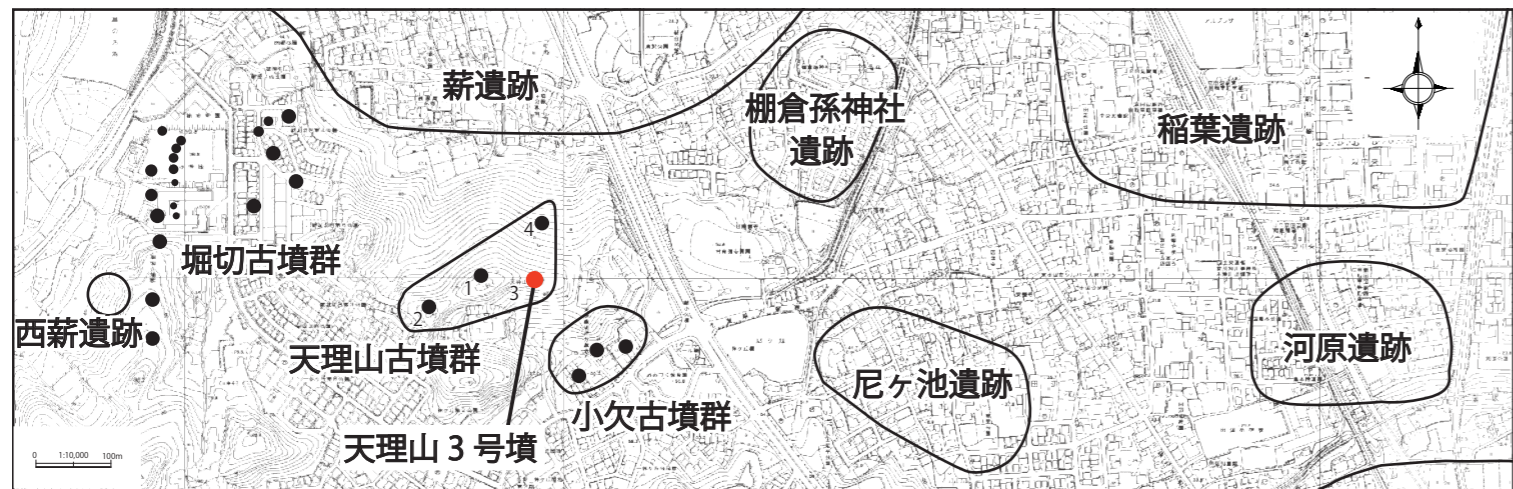


図1 周辺の遺跡



第3調査区 後円部南側上段斜面 (南東から)

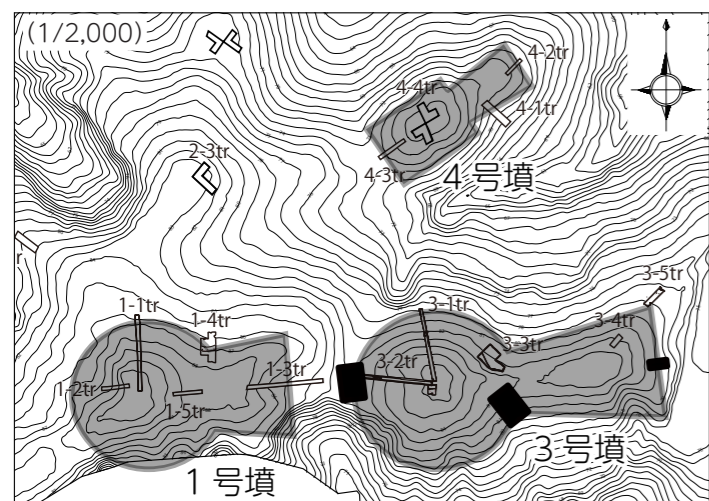


図2 天理山古墳群

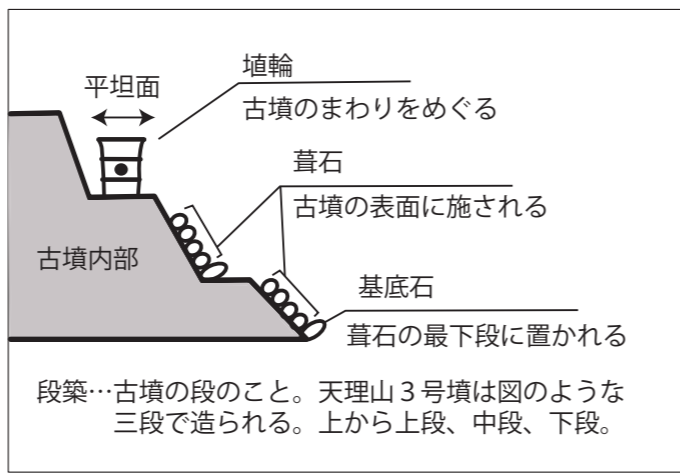


図3 古墳略図

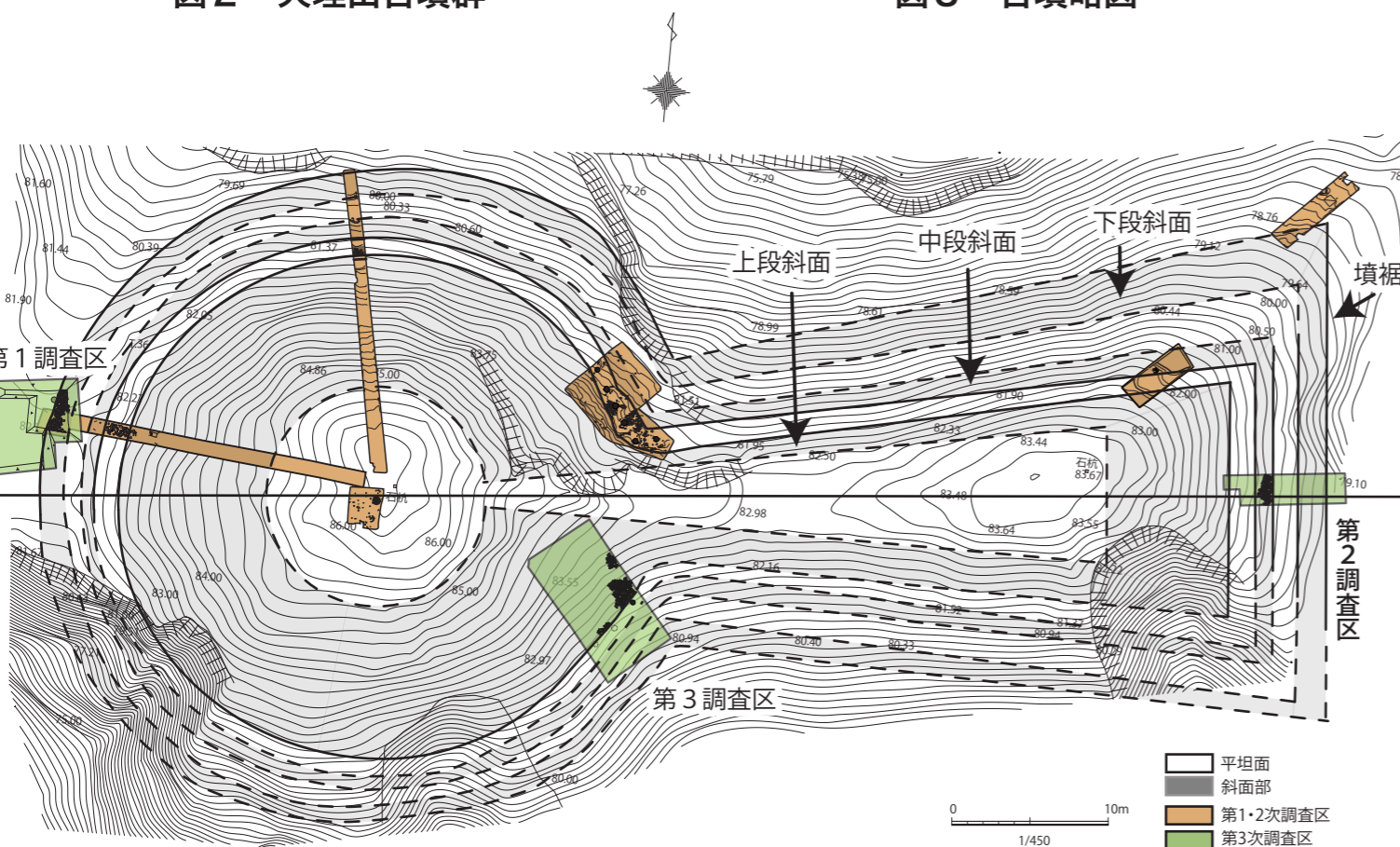


図4 天理山3号墳 復元図



第2調査区 (南東から)



第1調査区 樹立埴輪 (西から)



第1調査区 後円部西側下段斜面 (南西から)